

政務調査研究視察 報告書

平成 22 年 2 月 24 日提出

視 察 日	平成 22 年 2 月 23 日 (火)	
視 察 先	大阪府三島郡島本町	
視 察 内 容	島本バンブークラブについて	
視 察 者	(視察議員) 山崎憲伸 鈴木雅登 神谷寿広	
大阪府三島郡島本町	<p>子どもの教育には学校と家庭と地域のがっちりとした協力が不可欠である。今回は特に小学校において岡崎市では学校が担っている部活動を社会体育化することによって学校・家庭・地域の協力の具体化とできないかという動機をもって、その先進事例である島本バンブークラブを視察した。同クラブは今度岡崎市においても取り入れる予定の地域型スポーツクラブである。地域型スポーツクラブとは小中学校区単位で世代を超えた様々なスポーツを楽しめる場づくりによって人間関係を構築していこうという試みである。ちなみに島本では書道教室・テニス・フットサル・グランドゴルフ・英会話・社交ダンス・クッキング等たくさんの教室が用意されている。島本バンブークラブの特徴としてはスポーツ系クラブのみならず文科系クラブもあることである。またその教室の開催場所に関しては教育委員会が所管している体育館や市総務部が所管している町立体育館・保健所が所管しているふれあいセンター等があるが、いわゆる縦割りによる使い勝手の悪さは、各部共催という形でクリアーしている。また放課後の各施設の管理に関しては専従の管理者を雇うことにしている。その運営費をねん出する目的もあり、このスポーツクラブ運営に関しては会費制である。またその教室中の事故に備えて損害保険にも加入している。また各教室の監督・指導者には地域の定年退職者等をその講師に招聘しているとのことであった。以上の概要においても学区内での世代を超えた交流は様々なスポーツを企画・運営することによって深まっている。但し、小学校は小学校として部活動を独自に実施しているとのことであった。</p>	
	<p>〔感想・岡崎市への反映〕</p> <p>教育に関しては学校・家庭・地域の協力が必要というのは何人も思うことである。しかし、岡崎市においては家庭や地域の教育力は低下し、その低下分を学校教育が補っているのが現実だと感じるし、そういったアンバランスな教育環境では健やかな子どもは成長しないと考える。そこでまず教育の一分野である部活動を学校だけが担うのではなく、家庭と地域が協力して担えるような仕組みづくりを構築して教育のバランスを取り戻すことが必要と考える。上記の島本町の事例を取り上げても学校の部活動解放という方針が必要だと思った。場所の確保に関しては各部共催という形で了解をとっていることは勉強になった。今大量の定年退職者が発生している。その経験豊富な定年退職者を子どもの教育に生かせるように、部活動の指導者として認定されるよう制度的な整備が必要と思う。但し、その場合は学校の部活動を指導している教師との関係を整理する必要がある。</p>	

政務調査研究視察 報告書

平成 22 年 2 月 24 日提出

視 察 日	平成 22 年 2 月 24 日 (水)	
視 察 先	京都府 京田辺市	
視 察 内 容	大住ふれあいセンターについて	
視 察 者	(視察議員) 山崎憲伸 鈴木雅登 神谷寿広	
京 都 府 京 田 辺 市	<p>高齢者と児童の交流が、双方にプラスの要因があることは、以前から言われていたことではあるが、それを実践している施設があまりないのが現状である。岡崎市においても同様であるので、老人福祉センターと児童館を併設した複合施設「老人福祉センター宝生苑・大住児童館」を視察した。</p> <p>「老人福祉センター宝生苑・大住児童館」(愛称)大住ふれあいセンターは、老人福祉センターと児童館を併設することにより、高齢者と子どもたちが自然な形でふれあい、世代を越えた交流が活発に行われ、人づくりの拠点となる施設を目指している。付帯施設として、グランドゴルフ場 8 ホール・多目的広場・遊具広場・遊戯広場等を持ち、建設費約 7 億 3 千万円、総事業費 13 億円で平成 17 年 4 月 25 日に共用開始された。</p> <p>このような複合センターは同じ福祉部門でも、老人福祉と子ども福祉の二つの所管に跨るため、各課の調整が不可欠となるが、大住ふれあいセンターは、縦割り行政の弊害を防ぐため、現助役が中心となり、建設委員会を設置し、保健福祉部の健康介護課と子ども福祉課から委員を選出し、横の繋がった組織編制をすることにより、建設を実現したとのことである。</p> <p>大住ふれあいセンターにおいては老人福祉施設と児童福祉施設は明確に分かれており(見取り図参照)、老人と子どもが日々ふれあう場所は制限されている。これは、国や県の補助金の使用目的による制限からであり、非常に使い勝手の悪い条件になっているが、これは法整備の遅れによる弊害と思われるものである。</p> <p>しかしながら、同じ施設内で活動することで、ごく自然に会話が交わされたり、屋外広場においての交流が行われることにより、子どもたちの社会性、自主性等が身に付く効果があるとのことである。</p>	
	<p>〔感想・岡崎市への反映〕</p> <p>グランドゴルフ、人形劇、餅つき大会や囲碁教室など、交流事業を充実することにより、さらに、老人と子どもがふれあう機会を増やすことが可能であると感じた。</p> <p>今後、老人と子どもの世代間交流は、ますます重要となってくると思われるが、岡崎市においては、既存の施設を有効利用し、世代間交流を制限される補助金の使用をできる限り少なくし、世代間交流が気軽に、自由に行える施策を推進することが必要と思われる。</p>	



見取り図